

令和 3 年 9 月 1 6 日

塩竈市長 佐藤 光樹 様

塩竈市長長期総合計画審議会
会長 柳井 雅也

『第 6 次塩竈市長長期総合計画』（案）について（答申）

塩竈市長長期総合計画審議会設置条例（昭和 4 5 年 1 月 2 3 日条例第 3 号）第 2 条に基づき、令和元年 1 1 月 2 1 日付け第 1 1 3 号で本審議会に諮問された『第 6 次塩竈市長長期総合計画』の策定について、慎重に審議を行って策定しましたので、下記のとおり答申します。

記

1. 「第 6 次塩竈市長長期総合計画」（案）について

別添のとおりです。

2. 審議経過について

当審議会は、令和元年 11 月から 9 回にわたる審議を重ねてきました。この間、第 5 次塩竈市長長期総合計画の総括、基礎調査、市民や企業へのアンケート、市民まちづくりワークショップや地区別懇談会、企業・市民活動団体などへのヒアリング、パブリックコメントなどを実施し、基本構想と前期基本計画という構成を基本として、今後のまちづくりの方向性について検討を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、審議会を開催できない期間もありましたが、感染防止に努めながら丁寧な議論を積み重ね、合意形成を心がけました。

3. 基本構想について

(1) 目指す都市像について

第 6 次長期総合計画では、目指す都市像を『海と社に育まれる楽しい塩竈』としております。

これまで塩竈市は、海をはじめとした自然、そして豊かな歴史や文化を背景として、人々の暮らしが育まれ、魅力ある港町として発展してきました。

また、市民まちづくりワークショップでまとめられた「塩竈らしい 100 の暮らし」においても、自然や歴史・文化などの地域特性を生かしたさまざまな暮らしが提案されました。

どの暮らしを見ても「楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい」という市民の方々の想いが伝わってきます。

このことから、まちの至るところに「塩竈らしい楽しい暮らし」が広がり、市民の方々の笑顔があふれる塩竈が未来に続いていくことを切に願って、目指す都市像として掲げたものです。

(2) 8つのまちづくりの目標について

第6次長期総合計画の基本構想では、「子ども」「福祉」「生活」「産業」「交流」「文化」「協働」「浦戸諸島」の8つの分野を設定し、「まちづくりの目標と方向性」、そして、前期基本計画につながる「施策の柱」を定めました。

これは、第3回目の審議会において、「塩竈の個性や大切にしたいもの」や「望ましい今後の塩竈の方向性」について議論を行い、そこで出された意見を集約したものです。

また、「未来に続く8つの塩竈物語」には、今後も大切にしていきたいまちの姿を描いています。

まちづくりの方向性に沿った施策に着実に取り組んでいただき、未来に向けてこの物語が紡がれていくことを期待しています。

(3) 将来人口について

令和13年の将来人口を50,000人と設定しました。

将来人口については、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を参考としながら、住民基本台帳人口を基準に推計を行いました。

推計結果では、目標年度である令和13年の人口は約48,000人となり、令和3年と比較すると約5,000人が減少し、特に、年少人口と生産年齢人口の減少が大きいことが見込まれました。

このことから、「子育て世帯の移住・定住の促進」と「子どもを産み育てやすい環境を整える」ことを軸とした施策を展開していくことで、人口減少を抑制することとし、令和13年の将来人口を50,000人と設定しています。

また、これまでの総合計画の将来人口は、国勢調査人口を基準にして設定していたことから、5年ごとの検証とならざるを得ませんでした。本計画では、着実な進行管理に結び付けていくため、住民基本台帳人口を基準とすることで毎年度検証できるよう改めています。

全国的にも人口減少が進んでいく中、将来人口50,000人の確保に向けては、厳しい道のりが続くと思われまます。

一つ一つの施策を着実に実施していくこと、また、より広い視野を持ち、分野横断的に施策を展開するなど、たゆまぬ努力により、少しずつ道が開かれていくものと信じております。

4. 前期基本計画について

(1) 前期基本計画の策定にあたって

第6次長期総合計画では、基本計画を前期と後期に分割し、計画期間をそれぞれ5年としております。

これまでの長期総合計画においては、基本構想に合わせ、基本計画の期間を10年としていましたが、5年とすることにより、変化の著しい社会情勢にも速やかに対応できるものと考えています。

また、前期基本計画は、持続可能な開発目標（SDGs）や、地方創生、市民まちづくりワークショップから生まれた「塩竈らしい100の暮らし」など、幅広い視点を取り入れて策定を行っています。

さらに、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的な施策とともに、横断的な視点で施策を展開する「しおがま未来創生プロジェクト」を定め、都市像の実現を目指すものです。

(2) しおがま未来創生プロジェクトについて

「しおがま未来創生プロジェクト」を、前期基本計画の各施策を進めるにあたっての原動力と位置付け、市民の方々に「すみよさ」「よろこび」「やりがい」「にぎわい」を感じていただき、最終的には「塩竈への愛着と誇り」を高めていくことを目指しています。

市民の視点である「塩竈らしい100の暮らし」と、国における「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を重ね合わせ、施策の好循環を意識しながら、4つのプロジェクトを構築しており、各分野において特に重点的に取り組む施策と連動しています。

本プロジェクトを推進していくためには、施策に基づく具体的な事業を構築する際にも、この考え方を強く意識することが重要であり、今後の実施事業計画の策定に期待します。

(3) 進行管理について

施策の進行管理を適切に行うため、しおがま未来創生プロジェクトには、「重要目標達成指標」と「数値目標」を、前期基本計画の主要な施策については、「成果指標」を設定しています。

本計画の着実な推進に向けて、成果指標に基づいて施策の実施状況の定期的な評価を行い、改善に結び付けていくための仕組みづくりが不可欠です。

また、これらの指標をはじめとした総合計画の達成状況については、市民の方々にも広く周知していくことも重要です。

まちの課題を共有し、より良いまちにしていけるためには何かを市民の方々にも認識いただくことで、「協働・共創のまちづくり」に結び付けていくものと考えています。